

御所市元町のサンダルヒットメーカー、株式会社ニシベケミカルは、前身の西辺加工所からスタートを切り、抗菌衛生加工を施した便所サンダル「ベンサン」を世に出した。創業者で取締役会長の西邊豊彦さん(84)は、今も職人として歩んできた気概を忘れない。地場産業を日本有数の履物メーカーに育て上げたのは、塩化ビニール樹脂を金型に流し込んで作る一体成型サンダルの生産。ベンサンは病院、研究所、厨房などで重宝されている。4年前に代表取締役社長を承継した西邊俊彦さん(58)は、その技術を応用して、生地の柔らかさと履きやすいカラフルなシューズを開発、製造している。商標は「V I C」(勝利、ビクトリー)。他社と組んだ商品づくりにも取り組んでいる。

Made
in
奈良

御所市 株式会社ニシベケミカル

ヒット商品「ベンサン」から レインブーツまで

取締役会長
西邊 豊彦さん

代表取締役社長
西邊 俊彦さん



奈良では、農家の副業として始まった草履の製造が明治期に産業化し、戦後はヘップサンダルへと移行した。西邊会長が御所工業高校卒業後、いったん建設機械の技術見習いとして清川組に就職し、その後、現地に帰って草履づくりを始めたことが原点。

「当時はスリッパ、防寒サンダルを製造する加工仕事から始めて、そのうちにサンダル業界に入ってサンダルの装飾品を付ける加工仕事をするようになりました。その後、サンダルの材料であるアップパーの表面と裏面とが二重になっているものを張り合わせ、糊(のり)引きの仕事もやりました」と振り返る。

昭和45(1970)年頃、塩化ビニール樹皮を金型に流し込む成型機を購入し、一体成型サンダル製造が盛んになった。その延長として、上も底も一緒になっている立体成型サンダルの製造にこぎつけた。

「いまから48年前ですね。原料の節約と冷却時間短縮で、知的財産権を取りました。東京の北里病院で『看護婦物語』が日本テレビで放映されてね。看護婦や手術をする先生などがこれを履かれて、足元が何度も映されたんですよ。医療用品の間屋さんが、ほとんどオーダーをくれるようになって。今もそれが続いています」と西邊会長の頬がほころぶ。

トイレ用とうたっていな

抗菌衛生加工を施したサンダルなどの商品の数々



いものの水回りに強く、次第に「便所サンダル」の呼び名が、略して「ベンサン」と定着するようになった。「22年前に香港から取引に來られ、20万足という年間契約をいただいた。最盛期で200万足ぐらい売れました。国内は3月から7月までが売れます。ただ、生産量は靴にだんだん移行しているの、落ちていきます」と話す。

最高益になったのは、今

から約30年前の昭和63(1988)年から平成の初め

にかけて。大阪国税局長、

日銀総裁、通産大臣が工場

視察で訪問するほどのメー

カーとして、「ベンサン」

の名と共に発展を続けてき

た。そして、平成7(1995)年に西辺加工所から、

ニシベケミカルへと法人化した。

4年前、大手電機メーカ

貫かれた抗菌衛生加工 病院や研究所、厨房などで重宝



全国の自販機で販売されたベンサンのミニチュア、黄金色の「シークレット」

そのままに50ミにミニチュア化し、底など細部まで精巧に再現した。商品は色違いの5種類と、2種類の「シークレット」を、全国の雑貨店や量販店に設置されているカプセル自販機で、1回300円で販売した。

西邊社長は「ミニ

チュアは向こうが作って、

こちらは権利使用料をいた

だく形。半年という期間限定でいわゆる『ガチャガチャ』をやりましたが、当初

の計画の3倍ぐらいの売り

上げ。台湾など一部海外に

出されて、人気がありました

と」と手応えに満足でうた

た。2050年のカーボンニ

ュートラルに向き合ってい

くということ、一番のキ

ーポイントに挙げる西邊社

長。「生地の柔らかさ、ゴ

ムであるとか。ウレタン製

品であるとか」と、伸びる

もので履きやすい点を強調

する。

その上で、「婦人物もあ

りますが、数量的に動くの

はビジネスシューズです。

どうしても遊びシューズ

はスニーカー、スリッポン

など。雨の中、というのが

弊社の強みなので対レイン

ということで、直接雨を当

てない商品もあります。軽

くて柔らかいストレッチシ

ューズ、ショートブーツ的

な靴も」と話す。

大手広告代理店・博報堂

とのコラボ商品も。「博報

1で半導体の研究をしていた西邊社長が同社を承継した。「このベンサンという商品は2系統のルートがあります。まず、布製はベランダなどで履かれていました。が、濡れると乾くまで2日ほどかかる。なので、速乾性のある商品を開発。それを見られた居酒屋チェーン・白木屋さんで、座敷用スリッパにされた。それを外で履いた人がいて、ジーンズの下に履く外履きとして注目されるようになった。タウン履きとして火が

つきました」と話す。

一方で、最も重宝されて

いるのが、薬剤による高圧

高温洗浄をやって滅菌処理

をしている手術室の中。ベ

ンサンは素足で履いても、

通常の3倍程度の抗菌性を

持っている優れたもの。また、

埃(ほこり)を嫌う研究室、

開発室などで、靴下からの

埃を一切出さない防塵効果

もある。はっ水性があるた

め、水回りの厨房でも。

昨年11月、タカラトミー

アーツがベンサンに着目。

一体成型の実物の雰囲気

を、全国の雑貨店や量販店に設置されているカプセル自販機で、1回300円で販売した。

西邊社長は「ミニ

チュアは向こうが作って、

こちらは権利使用料をいた

だく形。半年という期間限

定でいわゆる『ガチャガチ

ャ』をやりましたが、当初

の計画の3倍ぐらいの売り

上げ。台湾など一部海外に

出されて、人気がありました

と」と手応えに満足でうた

た。2050年のカーボンニ

ュートラルに向き合ってい

くということ、一番のキ

ーポイントに挙げる西邊社

長。「生地の柔らかさ、ゴ

ムであるとか。ウレタン製

品であるとか」と、伸びる

もので履きやすい点を強調

する。

その上で、「婦人物もあ

りますが、数量的に動くの

はビジネスシューズです。

どうしても遊びシューズ

はスニーカー、スリッポン

など。雨の中、というのが

弊社の強みなので対レイン

ということで、直接雨を当

てない商品もあります。軽

くて柔らかいストレッチシ

ューズ、ショートブーツ的

な靴も」と話す。

大手広告代理店・博報堂

とのコラボ商品も。「博報



○創業=昭和38(1963)年3月
○代表取締役社長=西邊俊彦
○従業員数=45人
○資本金2000万円
○事業内容=一体成型サンダルとサンダルの底資材、成型ブーツと成型シューズの製造販売
○本社住所=御所市元町375
○電話番号=0745(62)2696
○ファクス=0745(65)0565